

JSRMPM ニュースレター 2007 年2 月4 日

リスクマネジメント学会の目的について。 一 個と公共の健康と安全の向上

国際予防医学リスクマネジメント連盟理事長 酒井亮二

リスクマネジメント学会の目的は、医療や環境などでの健康と安全に関する現場の抱える諸問題を実証科学の立場からその対策と政策を向上することです。そのために、2003年3月に東京にて第1回の世界大会を開催し、日本学会などさまざまな国内外の組織を設立し、過去5年間に精力的な活動を行っています。

世界学会では、コスタリカ(2004年)、ロシア(2004-5年)、マレーシア(2005年)、日本(2006年)、スウェーデン(2006年)、国連大学(2006年)、イラン(2006年)で様々なテーマで開催され、過去5年間に総数3000名以上の方が参加しました。緊急な課題については電子国際会議も数回開催しました。いずれも大学、研究所、医療機関などの他に、各国の大臣を含む行政担当者を交えた会議で、たとえば、コスタリカではリスクマネジメントの国立研究所の新設が厚生大臣を含めて激論されました。また、2006年の日本での国際会議では、参加した国連大学学長がマレーシアでGlobal Health Centerを近々開設すると報告しました。世界学会の会員は現在70ヶ国近くに分布し、産官学が一体となって、より良い健康と安全の政策・対策を討議しています。2007年6月にはカナダで医療の安全と質の向上に関する北米地区の国際会議が行われます。また、2008年次には東京大学にて第2回世界大会が開催されます。

日本学会も過去5年間に膨大な数の会議を行ってきました。日本学会では医療安全と災害安全・環境安全に関して特に関心が高い傾向です。日本学会での臨床系の会員は全会員の8割で、行政と政界の分野からも参加されています。日本学会もまた産官学が一体となった組織です。しかし、日本学会のこれまでの学術集会の内容は現場の対策の向上に高い比重があり、政策研究が少ない状況です。

各現場の声を集団としてとりまとめることにより大きな波が形成され、より良い健康と安全の公共政策が得られます。ここに、この学会は、個々点での対策と技術・知識の向上だけでは解決できないさまざまな難問を、社会制度というリスクマネジメントの1つの方法で解決することができる、他の学会にみられない大きな特徴があります。そのために、法医学を含む社会医学の方々の存在が重要であり、学会では社会医学の方を中心に社会システム部会を設立しています。

1つ1つの現場の力は弱くても、それを公共政策として提案することにより社会としての改善の道がひられます。各人・各機関が抱えている問題をこの学会の学術集会で提示いただき、それを広く討議することにより、より良い政策・対策を見出すことができ、それによって国民の健康と安全の一層の向上につながります。

日本では学会の入会動機としてリスクマネジメントの原理と方法を学びたいとの声が圧倒的ですが、自ら抱える現場の問題を学会での討議によって解決するという利点も大いにご活用ください。